

報 告 書

島田市議会議長 様

島田市議会議員	大石節雄
島田市議会議員	平松吉祝
島田市議会議員	藤本善男
島田市議会議員	河村晴夫
島田市議会議員	櫻井洋子
島田市議会議員	佐野義晴

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

- 1 日時 令和元年7月6日（土）
午後7時00分～午後8時30分
- 2 会場 川根（北堀集会場）
- 3 参加者数 13人（男性13人、女性0人）
- 4 役割
 - (1) 受付 全員
 - (2) 司会 大石節雄
 - (3) 挨拶（概要） 藤本善男
 - (4) 報告 各委員会（平松・河村・櫻井）
 - (5) 答弁 全員
 - (6) 記録 佐野

5 報告事項

【全体を通して】

○挨拶及び会を進めるにあたって趣旨説明をした。

- ・市民の意見を聞き、議会及び議員活動に生かし、市政に反映させる。
- ・要望については、自治会を通すルールに従う。

○自己紹介

○2月及び6月定例会の報告

- ・2月定例会は予算を審議する会。
- ・「包括業務委託」及び「会計年度任用職員制度」の概要説明。
- ・当初予算を3常任委員会、全会一致で否決。

＜否決の理由＞

一般会計の当初予算のうち「包括業務委託」は、不明瞭な部分が多く、時期尚早と判断したため。

- ・全議員が反対することは、当市ではこれまで例がなかったことである。
- ・このため、包括業務委託関連予算を削除した修正案を本会議において全員一致で可決した。
- ・「包括業務委託」及びこれに関連する「会計年度任用職員制度」について、2月議会から議論をしているが、6月議会でも最終的な決着を出すまでにいたっていない。9月議会でも議論をしていく。

(1) 議会の活動の動向の市民への報告について

① 総務生活常任委員会

- ・包括業務委託は全員否決。
- ・大井川の水の減量問題について、引き続き調査研究を行う。
- ・高齢ドライバーによる車の事故は社会問題化している対応策として、自動運転及び無人化システムの調査研究を進める。

(国内のメーカー及び先進地事例の調査等)

② 厚生教育常任委員会

- ・包括業務委託は全員否決(学校支援員、学校図書館支援員の委託)
- ・国保税の引き上げに関わる条例について、賛否が分かれた。
- ・新病院の建設について、進捗率は13.4%(5月末現在)。7月より免震工事が始まる。新市民病院の愛称を募集。
- ・幼児保育の無償化に関わるシステム改修をする。(3～5歳児は無償。ただし、幼稚園部に通う児童のあずかり保育の認定には条件が伴う。)
- ・7/1より、小・中学校の普通教室でエアコン共用開始。

③ 経済建設常任委員会

- ・川根温泉ホテルの指定管理者が7月より変わる。(大井川鉄道)
- ・新東名島田金谷IC周辺の賑わい交流拠点のこれからの動向についての詳細はまだ掴めない。(継続的に注視する)
- ・国道1号が2車線から4車線に変わる、落下物防止のネット工事に取り掛か

る。

・音楽広場について

1年間の来客数約2万人。防音室の利用者が少ないため、PRをしていくとのこと。指定管理者による管理運営に移行。

・下水道について

敷設計画に対して、1割程度のエリアに敷設及びこれから増設。クリーンセンターの長寿命化工事がスタートする。

④ 報告に対する質疑

・「包括業務委託」の詳細は不明だが、議会としてのチェック機能が働いたことを評価する。

・窓口業務を委託した場合、市民サービスの影響はどうか、質は担保されるか。

・中山間地区では、永年、住民と職員が業務も含め信頼関係を築いてきた。これまで通りの業務継続に課題が生じないか等々の質疑があった。

⇒ (回答)

・市民課の窓口は既に委託化している。六合と初倉の行政サービスセンターの窓口業務を委託しようとしている。この業務を民間にただ委託するのではなく、例えば水路橋の監視員や市バスの運転手も同じ業者に委託するというもの。

・議会としても、現時点では市民サービス低下の懸念が払拭できないので「包括業務委託」について反対した。今後もこの件についての審議は続くので、御意見を踏まえて考えていきたい。

(2) 意見及び情報交換について

・担当職員の配置換えや担当職員が不在の場合、スムーズな業務執行に課題がある。

・住民と職員の信頼関係が維持される職場環境を求める。

・災害等による通行止めを問題視する声から、2本の街道の通行維持を求める。

・高齢者に対する免許返納後の行政支援の声が寄せられた。

・高齢化から地区役員の成り手がない。(高齢者でも働く必要がある)

・バスの運行の回数が少ない(通院するのに不便)。自主運行を勧められても対応ができない。市から運転者を回してほしい。

・広報等の配布が負担であり、郵送等による配布を検討してほしい。

・支所機能の改善を求める。例えば、地域に特化した地域振興係等の設置はできないか。

・災害による停電対応として、事前の伐採を継続的に、更にまとめてできないか。

・地域として、過疎に対する要望をするが、川根地区の問題のみならず行政効率を高める面から過疎地区の対応を考えて欲しい。参考として、笹間地区のフェスタの来場者は13万人、まちの活性化に寄与している。

・まちの復活のキーワードに野球はどうか。(若者が集まる施策を期待する)

⇒（質問に対する答弁概要及び提案）

- ・高齢者の移動手段として、自動運転、デマンドタクシー及び無人化システムの調査研究をする。
- ・六合地区では住民相互の「地域おたすけ隊」を立ち上げている。
- ・役所機能について、地域事情にあった組織化が図れるように先進地等の調査研究をする。
- ・農業の維持及び耕作放棄地対策として、地域において、土地集約を図るため中間管理機構等（個人負担が「ゼロ」）の勉強会の立ち上げはできないか。

6 まとめ（所見）

- ・少子高齢化による人口減少に由来する、まちの維持継続のあり方に論点が集中した。
- ・議会及び議員としての取り組み課題
 - ① 過疎地域問題を担当する専門部署設置を望む声があった。役所機能の棚卸について調査研究が必要である。
 - ② 高齢化問題への対応は避けられない。直近の課題として、自主運行バスの運行は必要であるが、それに至る前段階の対策の調査研究。
 - ③ 高齢化の進展から役員の成り手がない。受けたとしても配布物等の対応が難しくなっている。市全体の実情調査の必要性を感じる。
 - ④ 議論された内容は、川根地区のみならず「まち」全体の課題でもある。対応として「選択と集中」や「縮充」のあり方をどのように考え、どう進めるか。
- ・今回の意見交換を通じて、「高齢化に端を発する諸問題」、「自治会と行政の適切な業務分掌」が今後の課題であるという出席議員の共通した認識を持つことにいった。